

△プロセキソール錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 エチニルエストラジオール ethinylestradiol 【分類】 卵胞ホルモン製剤

【単位】 △0.5mg/錠

【常用量】 1回 0.5～1.0mg を 1日 3回【前立腺がんのMAB療法後の再発】1mg/日 [分2] から開始し, 最大 3mg/日 [分3] (大仁田 亮, 他:泌尿紀要 55-595-598,2009)

【用法】 1日 3回経口投与

【透析患者への投与方法】 減量の必要なし (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要なし (5)

【特徴】 男性ホルモン療法に抵抗を示す場合の前立腺癌, 閉経後の末期乳癌に使用される卵胞ホルモン製剤。

【主な副作用・毒性】 血栓症、心不全、狭心症、血圧上昇、血糖上昇、大量継続投与により高 Ca 血症、Na や体液貯留、不正出血、乳房痛、悪心嘔吐、下痢、腹痛、頭痛、めまい、陰萎、黄疸、肝機能異常、精神障害の再発、発疹等

【F】 40～50% (1)

【tmax】 2～4hr (1)

【代謝】 CYP3A4 で代謝 (1)

【排泄】 尿中 (投与量の 30%) 及び糞中 (投与量の約 22%) に排泄される (1) 尿中累積排泄率 18.1～45.4% [8 日目まで] (未変化体及び代謝物として) (1) 【CL】 5.4mL/min/kg (1)

【t1/2】 10hr (1)

【蛋白結合率】 95～98% (1)

【Vd】 3.5L/kg (1)

【MW】 296.40

【透析性】 透析されないとされる (5) 資料なし (1)

【O/W 係数】 670 [クロロホルム/buffer, pH7.0] (1)

【相互作用】 CYP3A4 誘導剤の影響を受け, CYP3A4 で代謝される薬物を競合的に拮抗阻害する (1) テラプレビルにより作用減弱の可能性 (1) ヴィキラックス配合錠と併用禁忌 (1)

【備考】 用法・用量の記載されている原体の意味は日本薬局方「エチニルエストラジオール」のことを指す。以前は 0.05mg 製剤が発売されていたので、原体として 1 回 0.05～1.0mg 投与の記載が残っている (2009 年 12 月確認)

【禁忌】 エストロゲン依存性腫瘍 (例えば乳癌、性器癌) 及びその疑いのある患者 (治療目的で投与する場合を除く) [腫瘍の悪化あるいは顕性化を促すことがある]、血栓性静脈炎、肺塞栓又はその既往症のある患者[血液凝固能の亢進によりこれらの症状が増悪することがある]

【更新日】 20160418

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。